

ハイパーサーミア用の高周波誘電加熱装置について

山本 泰司 (やまもと やすじ) 山本ビニター(株) 代表取締役

1. はじめに

がん治療は近年、外科療法、放射線療法、化学療法を中心として大きく進歩してきた。これらのがん治療法は、早期に発見された局所的な癌にはきわめて有効であるが、転移した癌や再発した癌には、限界がある。我国の死亡原因の第一位は、相変わらず癌である。

最近、がん細胞を温めてやっつけるというハイパーサーミア（がん温熱治療）という治療法が、大きな注目を集めている。副作用がない上に、有効に繰り返し使えることで、難治性のがん患者に対し大きな希望と喜びを与えている。各地でハイパーサーミアの公開市民講座が開催され、またハイパーサーミアに関するインターネットサイト¹⁾では毎月10,000件以上のアクセスがあるなど、新しいがん治療法として位置づけられつつある。

我国でハイパーサーミアによるがん治療が始められ

たのは、大学病院や国公立病院を中心にハイパーサーミア装置が導入された1980年代後半からであり、既に20年以上が経過している。数年前より民間病院へのハイパーサーミア装置の導入も進み、現在我国ではおよそ300台以上のハイパーサーミア装置が設置され、がん治療の最前線で年間一万人以上が治療されていると推定される。

弊社は、1979年より京都大学医学部とハイパーサーミア用の加熱装置の共同開発を開始し、1984年に我国で初めてハイパーサーミア装置として厚生労働省の正式認可を受けた²⁾。以来、弊社の開発した高周波誘電加熱型のハイパーサーミア装置「サーモトロン-RF8」（写真1）は、我国では独占的な市場シェアと治療実績を誇っている。ここでは同装置の概要について紹介する。



写真1 サーモトロン-RF8